⑵　外国為替資金特別会計（別表３参照）

外国為替資金の収支は、554億円の受取超過であって、前年同期（4,938億円の受取超過）に比べ、4,384億円受取超過額が減少した。収入は、前年同期（３兆1,017億円）に比べ、１兆3,461億円増加して４兆4,478億円となった。一方、支出は、前年同期（２兆6,079億円）に比べ、１兆7,845億円増加して４兆3,924億円となった。

⑶　その他の特別会計等

その他の特別会計等の収支のうち、主な項目についてみると次のとおりである。

保険の収支は、収入12兆2,120億円、支出17兆4,003億円、差引き５兆1,883億円の支払超過であって、前年同期（５兆4,490億円の支払超過）に比べ、2,607億円支払超過額が減少した。

3　国債等・国庫短期証券等（別表１参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成27年度第３・四半期			前年同期		
	発行(借入)	償還	差引き	発行(借入)	償還	差引き
国債等	358,401	194,180	164,221	359,574	208,559	151,015
国債(１年超)	342,803	183,301	159,502	348,528	199,232	149,296
借入金	15,598	10,879	4,719	11,046	9,327	1,719
国庫短期証券等	915,891	783,234	132,658	1,040,276	799,106	241,170
国庫短期証券	800,391	667,734	132,658	914,276	673,106	241,170
一時借入金	115,500	115,500	0	126,000	126,000	△ 0

国債等及び国庫短期証券等の発行（借入）・償還状況は、上表のとおりである。

国債等の収支は、16兆4,221億円の受取超過であって、前年同期（15兆1,015億円の受取超過）に比べ、１兆3,206億円受取超過額が増加した。国債（１年超）の収支は、発行34兆2,803億円、償還18兆3,301億円、差引き15兆9,502億円の受取超過であった。借入金の収支は、借入１兆5,598億円、償還１兆879億円、差引き4,719億円の受取超過であった。

国庫短期証券等の収支は、13兆2,658億円の受取超過であって、前年同期（24兆1,170億円の受取超過）に比べ、10兆8,512億円受取超過額が減少した。国庫短期証券の収支は、発行80兆391億円、償還66兆7,734億円、差引き13兆2,658億円の受取超過であった。一時借入金の収支は、借入11兆5,500億円、償還11兆5,500億円、差引き０億円の受取超過であった。

（参考）　実質収支

上で述べた財政資金対民間収支は、各会計等と民間との間における収入支出（窓口収支）のみをとらえたものであるが、各会計等の収支の実態をみるため、これに各会計等相互間の収支（国庫内振替収支）を加えた実質収支を示すと、次のとおりである。

△印は支払超過（単位　億円）

区分	窓口収支 (A)	国庫内振替収支 (B)	計（実質収支） (A)＋(B)
一般会計	6,613	△ 86,361	△ 79,747
特別会計等	△ 58,877	233,583	174,706
財政投融資	5,758	△ 39,422	△ 33,664
外国為替資金	554	8,223	8,777
保険	△ 51,883	55,450	3,566
その他	△ 13,306	209,333	196,027
小計	△ 52,264	147,223	94,959
国債等	164,221	△ 5,380	158,841
国債(１年超)	159,502	△ 4,919	154,583
借入金	4,719	△ 461	4,258
国庫短期証券等	132,658	△ 141,843	△ 9,185
国庫短期証券	132,658	△ 150,000	△ 17,342
一時借入金	0	8,157	8,157
合計	244,615	—	244,615
調整項目	69	—	69
総計	244,683	—	244,683

第２　国庫対日銀収支（別表４及び別表６参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成27年度第３・四半期	前年同期
国庫短期証券の発行・償還(△)	△ 152,738	△ 236,748
特別会計の債券売・買(△)	109,153	92,000
財政投融資	11,980	42,290
国債整理基金	97,173	49,710
その他	△ 93,062	△ 72,815
計	△ 136,647	△ 217,563

期中における国庫対日銀収支（＊５）は、上表のとおり、13兆6,647億円の支払超過であって、前年同期（21兆7,563億円の支払超過）に比べ、８兆916億円支払超過額が減少した。

その内容についてみると次のとおりである。

1　国庫短期証券の発行・償還

国庫短期証券の発行・償還による日本銀行との間の資金調達・資金返済状況をみると、資金調達４兆8,316億円、資金返済20兆1,053億円、差引き15兆2,738億円の支払超過であって、前年同期（23兆6,748億円の支払超過）に比べ、８兆4,011億円支払超過額が減少した。

2　特別会計の債券売・買

特別会計と日本銀行との間の債券売買の状況をみると、10兆9,153億円の受取超過であって、前年同期（９兆2,000億円の受取超過）に比べ、１兆7,153億円受取超過額が増加した。財政投融資は、１兆1,980億円の受取超過であって、前年同期（４兆2,290億円の受取超過）に比べ、３兆310億円受取超過額が減少した。国債整理基金は、９兆7,173億円の受取超過であって、前年同期（４兆9,710億円の受取超過）に比べ、４兆7,463億円受取超過額が増加した。

3　その他

国庫と日本銀行との間の経常収支は、９兆3,062億円の支払超過であって、前年同期（７兆2,815億円の支払超過）に比べ、２兆247億円支払超過額が増加した。

第３　政府預金（別表５及び別表６参照）

財政資金対民間収支（24兆4,683億円の受取超過）から政府預金（＊６）の増減に関係のない調整項目（69億円の受取超過）を除いた収支は、24兆4,615億円の受取超過であった。また、国庫対日銀収支は、13兆6,647億円の支払超過であった。その結果、政府預金の期末残高は、前期末（６兆2,496億円）に比べ、10兆7,967億円増加して17兆463億円となった。